

模試分析通信（中 1）



先生達は、模試の結果が返却されると、模試分析会という会議を開いています。

その会議では、担任がクラスの状態を、教科担当者が授業の状態を話し、模試の結果をふまえて、どの範囲が弱かったか、その弱い範囲をどうフォローしていくかを話し合っています。

この【模試分析通信】は、教科ごとに、きみたちがこれからどう取り組んでいけばよいのかをわかりやすく書いています。しっかり、読んで、今後の模試に役立ててください。



【リスニング】普段からできるだけネイティブの先生がナチュラルスピードで話される英語を理解するようにしましょう。

【ライティングセクション】・基本的な単語力はもちろんのこと、君たちが苦手とする曜日や月、数字を表現する単語も正確に書けるようになっておきましょう。

- ・文法については特に時制（過去形・現在形・現在進行形）を正確に理解しておきましょう。
- ・長文問題については教科書や問題集の長文を読むときにストーリーを頭の中で整理して組み立てていきましょう。わからない単語があっても前後関係から意味を推測しましょう。



まずは基礎基本の中でも特に計算力をしっかりとつけていくことです。小学校と違う負の数の計算や累乗の計算を間違えなくしっかりとできるようにしましょう。次に文字の扱いに慣れていくことです。計算はもちろんですが、文字を使った式で表現できることがこれから必要です。今までのSUT・早朝テストや問題集を再度活用することや、Eラーニングでの学習をあわせていくことにしましょう。



言語知識・・・漢字：朝テストで利用している「スタートアップ受験漢字 1900」を何度も解き直しましょう。文法：「中学校の文法」を見直すこと、特に「品詞分類表」をしっかりと覚えましょう。

文章読解・・・説明文：接続詞の種類、意味をおさえましょう。小説文、随筆文：きっかけ→心情→行動という読解パターンを理解しましょう。

課題に取り組むときには、すぐに解答を見ずに「自分で解いてみる」ことを心がけてください。時間配分を考えて解く練習もしておきましょう。

模試分析通信（中2）



先生達は、模試の結果が返却されると、模試分析会という会議を開いています。その会議では、担任がクラスの状態を、教科担当者が授業の状況を話し、模試の結果をふまえて、どの範囲が弱かったか、その弱い範囲をどうフォローしていくかを話し合っています。

この【模試分析通信】は、教科ごとに、きみたちがこれからどう取り組んでいけばよいのかをわかりやすく書いています。しっかり、読んで、今後の模試に役立ててください。

（国語）45分という試験時間の中で、4つの大問を解いていかなければなりません。今回は時間配分がうまくいかなかったケースが多かったようです。内容からみると大問1は5分以内、大問2・3は15分以内、大問4は10分以内で解きたいところです（得意、苦手があるので、あくまで目安の時間）。

読解の問題では、特に記述の問題の配点が高いです。心情（気持ち）、理由などが問われていました。記述の解答作成ではいきなり書き始めるのではなく、まずキーワードを探しましょう。核になる言葉を探し、その説明になる言葉で肉付けをしていく練習が有効です。主語、述語の関係も考えて字数以内にまとめる力をつけていきましょう。

漢字や言葉の知識などを増やすためにも、読書を積極的にしましょう。中学生は大人への入り口の時期です。社会科学や自然科学分野の本などにもチャレンジしましょう。そして、わからない漢字や語句は調べていきましょう。言葉の広がりで自分の世界は広がっていきます！！

（数学）校内平均『55.3』全国平均『51.4』で、ついに全国平均を超えることができました。がんばりましたね。全体では、前半の基本問題の正解率が伸びてきています。

特に、1次関数の点数を伸ばせた人は、総合点を大きく伸ばすことができました。今回の課題は【規則性】と【図形】問題です。練習量がまだ少ないという原因もありますが、問1は高校数学になると教科書レベルで出てきますので、必ず出来るようになる必要があります。問1は「難しく見えるだけ」です。図に座標や式、長さを書き込む癖がまだついてない人、それが「難しく見える」1番の原因です。書き込めば簡単に解けますよ。

（英語）大阪進研で15点、学力推移11月でも初めて0.6点全国平均を上回ることができてよかったですね。

大阪進研では、あらゆる分野で全国平均を上回れましたが、学力推移では、リスニング、文構成、英作文で全国平均を上回れました。これは、普段の授業の成果、つまり、Rick先生の英語を聴き、CDを聴いて音読練習をすることを通して、実践的なリスニング力が培われ、また、英語の語順「～が・ーする・～に・ーを」を意識し、常に文全体を英語で書くことを通して、英作文力が培われた成果だと思います。（Vノートも含めて）。

学力推移で会話文完成や長文読解が全国平均に達しなかったのは、英語力というより、英語的思考力が開発されていないことによるものと思われます。英文を読む力は十分備わっています。英文を読んで、問題解決する思考力を養うことが大切です。そのためには、ドラゴンゼミ Jr で取り組んでいる、上級長文読解講座の問題に真剣勝負しましょう。

次回1月26日（月）の学力推移に向けて Go For It!!

模試分析通信（中 3）



先生達は、模試の結果が返却されると、模試分析会という会議を開いています。その会議では、担任がクラスの状態を、教科担当者が授業の状況を話し、模試の結果をふまえて、どの範囲が弱かったか、その弱い範囲をどうフォローしていくかを話し合っています。

この【模試分析通信】は、教科ごとに、きみたちがこれからどう取り組んでいけばよいのかをわかりやすく書いています。しっかり、読んで、今後の模試に役立ててください。

（英語）全国平均 45.9 点に対して、龍大平安中は 51.5 点でした。「語い・文法」分野で 0.3 点下回りましたが、その他の全分野で全国平均を上回りました。そこそこ健闘した、と言えるかもしれません。「語い」分野がやや弱かったからといって、やみ雲に単語を覚えるのは感心しません。あくまでも例文と一緒に覚えましょう。そういう意味でも、教科書の **Key Points** を総復習することを勧めます。文法の復習にもなるので一石二鳥です。「覚えてしまおう」と気負わずに、意味を理解しながら声に出して繰り返し練習してください。「長文」が苦手な人は、教科書の **Read** の文章を、いつも言うように左⇒右に、スラッシュで切りながら意味を取る練習をしましょう。

何事も成果が出るまで粘り強く続けることが大切です。これからの高校入試、高校での学習に備え、しっかりがんばりましょう。

（数学）全国平均と比較すると、7 点ほど校内平均の方が高かったです。入学した頃の模試では全国平均点と校内平均点はほぼ同じであったことを考えると、学年全体としては成績が伸びているといえます。その要因として、大問 1，2 の基本問題の正答率が上がってきたことが挙げられます。ここ最近、授業でも特に力を入れていた『基本問題を確実に解く』ということも多くの人が達成できていました。しかし、応用問題になるとまだまだ解けきれない人が多数いるのが現状です。日頃から自分の中にある知識(定義や公式など)を活用して(アイデア、閃き)解を導き出す練習をしていく必要があります。今後の授業でも基本問題と応用問題と両方とも演習を重ねていきましょう。また、今回の学力推移で注目したいのが選択問題です。今回の選択は以下の 3 つでした。

●1 次関数 12 人 / 63 人 ●図形 51 人 / 63 人 ● $y=ax^2$ のグラフ 0 人 / 63 人

上の通り、多くの人が図形を選んでいました。その理由としては模試を受験した当時は普通の授業で幾何編の教科書を扱っていたため、図形問題に慣れていたのでだと思います。そして、最も注目したいことは、『 $y=ax^2$ のグラフ』を選択した人が 0 人であったことです。この単元は平安高校の過去問や、他府県の公立高校の過去問をみるとほぼ 100% の割合で出題される中学数学の重要単元であるにも関わらず、学年全体として苦手意識を持っている人が多いのではないのでしょうか。今年の平安高校の入試でも出題されることが十分考えられますので、今後の授業でじっくりたっぷり演習を重ねていきましょう。

（国語）漢字や文法、語句の出来具合は普段からどれだけ親しんで使用しているかの表れです。朝テストの前の漢字練習だけではなく、「あゆみ」や国語以外でも授業のノートを書く際にきちんと書けるようにしましょう。もし、書けない漢字がある時は面倒くさらず、辞書で確認しましょう。これをしなければ、将来 1 点に泣くことになりますよ。

説明的文章や物語的文章の問題を読解するためには、正確に文章の内容を読み取ることが必要です。自分がどう思うかは別にして、書き手や問題を出した人の意図を絶対つかむぞというつもりで文章や設問を読むようにしましょう。文章読解に慣れるためには、問題をたくさん解くことが必要です。また、読書でも読む力を伸ばすことができます。小説やライトノベルズをよく読んでいます人はいと思いますが、そのような類いではありません。筆者の言いたいこと（主張）を伴うものを読みましょう。具体的に紹介すると、「岩波ジュニア新書」などは読みやすいでしょう。

国語の力をつけることは、他教科の力を伸ばすことにも繋がります。基本的なことがらを十分に習得していきましょう。